

# 神樹の会会報

No. 57  
平成14年7月15日

発行所：神樹の会  
発行人：宮脇 テル子

本部事務所 (六甲作業支援センター内) ☎821-1533  
〒657-0037 神戸市灘区備後町3-2-22

明芳デイサービス ☎735-8835  
〒654-0024 神戸市須磨区大田町6-4-4

福祉の店“いたやど” ☎733-2477  
〒654-0022 神戸市須磨区大黒町2-2-12

たおじ作業所 ☎987-2532  
〒651-1312 神戸市北区有野町有野字白原3689

六甲作業支援センター ☎821-1533  
〒657-0037 神戸市灘区備後町3-2-22

ゆめの作業所 ☎578-3539  
〒652-0041 神戸市兵庫区湊川町8-4-10

垂水作業支援センター ☎782-9675  
〒655-0006 神戸市垂水区本多町7-2-3

## 重点目標

1. 会員相互の絆を強め、共に生きる輪を広げよう
2. 療護施設の早期実現
3. 心身障害児(者)の地域社会への参加と交流  
○事業の確保・拡充
4. バザー活動の発展と充実

## 総会 平成14年度

# ドリブル・シュート ゴール

早いパスで...



平成十四年度総会が、去る六月九日(日)に神戸市勤労会館において、多数の来賓をお迎えし開催されました。各氏よりいただきましたあいさつの要点をご紹介します。

### 福祉制度が変わります

神戸市保健福祉局参与 大下 知則

平素は市の障害者政策にご支援いただきお礼を申し上げます。神戸市は平成二十二年に向け

「神戸市障害者保健福祉計画二〇一〇」をスタートした。サービスについて数字を提示している。計画の二本柱のひとつは地域の暮らしの推進。施設に入っている人だけでなく、地域に



一、施設のサービスのあり方  
二、地域生活を送るための福祉相談  
三、障害者の権利尊重  
これを前面に出したところが特徴で、利用者や事業者が対等の関係で契約の考え方で進める、その一つのあらわれが支援費制度である。来年のスタートに向けて準備をしている。厚生労働省の考えを聞き、皆さんにも秋から具体的な情報を提供できる

開かれた施設。障害のある人な  
い人の生活を等しくし、色々な場面に参加し一緒に生活することをめざす。また、三つの地域生活支援センターを立ちあげ、身近な所で相談できるサービスに障害者政策も変動している。会の大きなスクラムが応援団になり、実り多い総会になることをお祈りしている。

### 「地域で生活できるよう…」

神戸市市会議員  
福祉環境委員会委員長 橋本 秀一

障害者は政策を展開するには数の少ないことがネックになってきている。基礎構造改革もどうあるべきかみんなで考えていかなければならない。障害をもっている人を元気な人は横において考えてしまうのが実情です。地域にみなさんも出して欲しいし、介護しているみなさんの気持ちを一人一人が知って欲しい。

ここにこハウスを訪問する前は躊躇している人もいたが、利用者、指導員を見て、我々も知っていかねばと思う。障害をもっている人も高齢化してきている。世話をする人がいなくなった時、地域で生活できるよう施設整備が必要と思う。

「保健福祉計画2010」の話があったが、みなさんの日頃の思いを聞かせていただいて議会をあげて市と共に進めていきたい。

会員総数	512
出席者数	49
委任状	294
合計	343

### 特色ある学校をめざし

神戸市立垂水養護学校長 山口 格生

総会おめでとございます。私はこの会の発足のころ、牧野校長のもとで友生養護学校に勤めていました。先日、友生養護学校の運動会に行くと神樹の木がずいぶん大きくなっていました。ノーマライゼーションというところで、地域で子ども達が生活



▲総会の様子

### 私たちが願っていること

神樹の会会長 宮脇 テル子

二月に出された「神戸市障害者保健福祉計画二〇一〇」によりますと、これからの障害者福祉の傾向は障害のある人の地域生活の継続への支援を中心とし、地域での暮らしへの支援を重視した施策展開を図っていく方向にあります。また、十五年度より支援費制度が始まります。このように従来の障害福祉の考え方や施策が大きな変革へと進む中、神樹の会におきましても変化の必要に迫られてきました。まず会則につきましても、本会の目的が身体障害者を対象としてあげられておりましたが、心身障害児者を対象とすることにになりました。二つ目は、友生養護学校、垂水養護学校卒業の学年制から選出されてきました。監事という役職がなくなり、地域社会の中で地域からも支えられる、地域と共にある施設を目指すこととされています。これは私たちの願っていることであり、大いに期待したいと思います。

代表として選出されることになりました。また、会議の名称が変わっていますので、はじめは耳慣れないかもしれませんが、せんがよろしくご協力下さい。私たちの念願である療護施設建設について、「二〇一〇」の中で地域バランスが考えられています。次なる計画は神戸市東部であるということです。そして施設内の生活だけでなく、地域での社会参加を通しコミュニケーションの一員であることを実感できるような施設展開を検討し、

### 現場実習に行こう

水守 智子

最初の二日間、ドリームスという所へ行きました。当日は、その場所に行く前も、着いてからも緊張しっぱなしでした。それとパソコンが三台もあってすごいなあと思いました。私は二日間かかって自己紹介の文書を作りました。文章を考えるのに必死でした。でも完成品はきれいにできて嬉しかったです。

次に一泊二日の日程でワークホーム明友に行きました。一日目は手芸班で仕事をしました。手芸はあまり好きではないので最初はどうかと不安でした。でも意外と集中できてほっとしました。ちゃんと完成しました。二日目は袋をつくる班で、ビニール袋を折りたたむ作業をしました。二日間とも難しい作業だったけど、すごくやりがいがあったよかったです。現在、実習や施設見学などを通して、進路について今真剣に考えているところです。

(友生養護学校高等部三年)



# 変わる

未来はあなた次第  
始める

できることから



## 訓練に参加して

川下 謙一

機能障害回復のために、二次障害を防ぐために、健康状態維持に、訓練教室を利用しましょう。

北摂地域に療護施設を願う10年間準備をされ、この度みごとに夢を実現された下野百合子氏をお招きし、総会后、お話を聞きました。

## 「このようにして」...

北摂に療護施設をつくる会  
会長 下野 百合子

子どもも親から自立した生活を送れる場をと、私たちの手で療護施設を作ろうと立ち上がった。

八九年十一月十日「どんなに障害が重くとも豊かな生活を作る会」を発足した。二百人の参加で親たちの期待の大きさを感じた。まず実態を調査し、それをもとに大阪府へ要望書を持っていくと府は「土地持ちに...」市は「府の責任」という。私たちは①地域配分を考慮しての療護施設②土地の貸与の二つに絞って

九四年、最初は私たちのめざす施設像を描き、二回目からは委員会を作り、十箇所の施設などを訪問・見学した。資金作りは九二年秋より募金の街頭宣伝活動をしたり、各種チャリティー事業を開いた。六千万円になり、寄付目標二億円(五十万円×会員四百人)とし、結果として三億円を作り出した。法人は既設の法人に依頼するの、新設でいくのか話し合い、私たちが作ると決める。

夢を持って勇気と知恵と力を出せば願いが叶う。親だけで専門家はいるが、一つ一つ出来ることをやっていくことが行政を動かす、十年の間にはダメかと思うこともあったが「ともがき」は開所にこぎつけた。

### 《意見交換》

Q 療護施設が必要という考えを持つ親が集まったとは思いますが、どう進んだ

A 街頭で見知らぬ人から募金をいただいたらこれは返すことができない。絶対に作らねばと会員に言った。しんどかったと言っ人はあまりいない人で、楽しかったと言っ人はよくやった人です。やったという達成感が自信につながったと思う。

Q 責任を背負わなければというのがある。決めかねることがある。

A 街頭で見知らぬ人から募金をいただいたらこれは返すことができない。絶対に作らねばと会員に言った。しんどかったと言っ人はあまりいない人で、楽しかったと言っ人はよくやった人です。やったという達成感が自信につながったと思う。

## 新役員紹介

平成14年度新役員が次の方に決まりました。

会長	宮脇アル子	支部代表	白石 節子	顧問	水野 整一
名誉会長	牧野 一夫	学校	石倉 旬子	相談役	伊達 一美
副会長	日高美恵子	東灘	豚座八重子		山口 格生
	吉岡佑起子	中灘	大川 民子		足立 梅雄
	西原字左子	兵庫	岡本八重子		池田 稔
	進元 文枝	長田	牛村 和子		長谷川 隼彦
	小野 治子	須磨	森山 里美		高内 恒夫
事務局長	河田 伶子	垂水	山内 妙子		石川 福松
	大橋 敬子	西	植田 洋子		田中 敬
	池田 恵子	北	石井クミ子		安原 実
	松岡 幸代		辻野 富貴		原田 允美
	宮口 公代				浜本 由雄
	根岸 初美				東郷 賢治
庶務	黒田素美子	明芳デイサービス	西原字左子		北井 寛
	瀬口 暢子	事業所所長	山口久美子		高井 寛
	渡田美津子	たおし作業所所長	堀之内広美		岡田 孝久
	西村 洋子	ゆめの作業所所長			北 義和
	北脇 貞子	六甲作業支援			望月 秀雄
	前川登美子	センター担当者			谷 良子
	中野 紀子	垂水作業支援			
	清水 和代	センター担当者			
会計監査	泉 伸一	福祉の店いたやど			
	高木 恵子	責任者			
		土居美千代			

## 訃報

平成十四年五月より七月までに、次の会員の方々が亡くなりました。心よりお悔やみ申し上げます。

本田 巨先生(垂水養護学校校長)  
中田 保様(平成元年度垂水)

本田先生には四年間垂水養護学校長として子ども達がお世話になりました。心より感謝申し上げます。謹んで哀悼の意を捧げます。

## おとがき

ビールやUVケアのCMが夏本番を思わせる今日この頃、お元気で過ごしてください。会報57号をお届けします。ご意見・ご感想をお待ちしています。

(正田 山本 白石 大住  
矢野 岡本 小野 宮脇)



▲友生養護学校での訓練の様子

## 訓練教室

吉岡 佑起子

学校を卒業した子ども達に「訓練の場を」ということで、平成4年に友生・垂水両養護学校で立ち上げました。トレーナーはボランティアをして下さる先生方です。

平成13年度までは月2回、今年度は月1回、毎回20人以上の参加があります。参加者達は体のケアはもとより、懐かしい学舎に行くことで心の癒しも得ているようです。

また、親離れ子離れを目標にボランティアの介助に慣れることを目指し、1泊2日の「宿泊キャンプ」も実施しています。

ショートステイに自信がついた、親のレスパイトにもなる、と楽しく参加されています。

(副会長・(東)訓練教室担当)



▲「はいーのぼして」  
垂水養護学校訓練室にて

神樹の会の訓練会に参加して思うことは、訓練を必要として熱い思いで参加して来られる卒業生の思いを肌で感じます。熱意があり、活気あふれた中に参加すると、私は逆に元気をもらって帰ります。在学中は、ほとんど毎日のように訓練する機会がありました。ところが卒業すると訓練の機会がなくなり、身体がかたくなりがちです。維持することの大切さを痛切に感じます。少しでも体が楽になり、気持ちよかったですと思ってももらえたら幸いです。

(神戸市立友生養護学校教諭  
心理リハビリスペーパーパーバイザー)